



代表取締役会長

十倉 雅和

「化学の力」を活かした 住友化学ならではのイノベーションで 社会に貢献する

昨年2月のロシアによるウクライナ侵略は、今なお収束の兆しが見えず、世界の分断は一層進んだ状態になりました。戦後、世界が築いてきた国際秩序の根幹が大きく揺らいでいます。また、インフレの高止まりや金融不安などが、ポストコロナの世界経済に大きな影を落としています。こうした環境は当面続くとみられ、私たちは、いわば、海図のない世界に、混迷の時代に踏み出そうとしています。

そのような中スタートした中期経営計画は、当初の想定を超えて、厳しい環境の中での船出となりました。それでも、私たちが中長期に取り組むべき課題は変わりません。世界が取り組むべき「カーボンニュートラル」や「生態系保全」など社会的課題の解決には、「科学の力」が必要とされています。今から100年前、別子銅山での煙害という、当時は不可能とも思えた社会課題の解決と、食糧増産への貢献の両立を成し遂げたのも、「化学の力」と先人たちのたゆまぬ努力でした。

化学は未来を拓く、イノベーションの核です。社会の変化をチャンスと捉え、グリーントランスフォーメーション(GX)、デジタルトランスフォーメーション(DX)を加速させ、住友化学ならではのイノベーションで未来に、そして社会に貢献していきます。

ステークホルダーの皆さまにおかれましては、引き続き、格別のご支援、ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

2023年7月